

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成26年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成26年7月

宮城県商工会連合会

-中小企業景況調査報告書

平成 26 年 4 月～6 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

2. 調査対象期間

平成 26 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は平成 26 年 6 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	33
建 設 業	25
小 売 業	43
サービス業	49
合 計	150

5. そ の 他

本報告書中のDIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 26 年 4 月～6 月期)の調査において、産業全体の業況D I (前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より $\Delta 0.9$ と若干悪化し $\Delta 32.2$ (前期 $\Delta 31.3$)となった。産業別にみると、製造業は $\Delta 21.9$ (前期 $\Delta 31.3$)と9.4ポイント改善し、建設業が $\Delta 4.0$ (前期 $\Delta 8.3$)と4.3ポイントの改善、サービス業では $\Delta 43.7$ (前期 $\Delta 44.9$)と1.2ポイント改善したが、小売業では $\Delta 43.9$ (前期 $\Delta 28.5$)と $\Delta 15.4$ ポイント悪化した。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体としては前期(H26年1月～3月期)から今期は若干の改善傾向になっている。産業別にみると、製造業は $\Delta 24.3$ (前期 $\Delta 17.6$)で $\Delta 6.7$ ポイントの悪化、建設業は $\Delta 12.0$ (前期4.2)で $\Delta 16.2$ ポイント悪化し、小売業でも $\Delta 46.5$ (前期 $\Delta 34.9$)と $\Delta 11.6$ ポイント悪化した。サービス業では $\Delta 20.5$ (前期 $\Delta 51.1$)で30.6ポイントと大幅に改善した。

② 採算の状況

採算D Iについては、全体として今期は前期に比べて悪化した。産業別にみると製造業で $\Delta 36.4$ (前期 $\Delta 33.4$)と $\Delta 3.0$ ポイント悪化、建設業は $\Delta 20.0$ (前期 $\Delta 4.2$)で $\Delta 15.8$ ポイント悪化し、小売業は $\Delta 58.1$ (前期 $\Delta 37.2$)で $\Delta 20.9$ ポイント悪化、サービス業でも $\Delta 55.2$ (前期 $\Delta 51.0$)となり $\Delta 4.2$ ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では15.2%で前期比 $\Delta 2.4$ ポイント減少したが、建設業では32.0%で前期比7.0ポイント増加し、小売業でも12.2%と前期比0.6ポイント増加した。サービス業では12.8%で前期比 $\Delta 1.5$ ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

6月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断D Iは製造業が3ポイント悪化のプラス1、非製造業は6ポイント悪化のプラス2だった。非製造業ではプラス幅は縮小したものの、3期連続でプラス圏となった。先行きは製造業で改善する一方、非製造業では悪化が予想される」と発表された。宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全産業がマイナス値であり、前期との比較ではサービス業が大幅な改善傾向である一方、製造業、建設業、小売業は悪化となった。

今期の宮城の全国との売上額D I比較では、サービス業では全国並みに改善したが、他業種では全国を下回った。東北ブロックとの比較でもサービス業は宮城が若干上回ったが他業種では東北を下回った。

表－1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 0.3	△ 3.6	△ 9.3	△ 9.4	△ 17.6	△ 24.3
建 設 業	15.2	0.4	22.1	△ 7.6	4.2	△ 12.0
小 売 業	△ 31.3	△ 37.1	△ 35.8	△ 43.5	△ 34.9	△ 46.5
サービス業	△ 28.3	△ 20.2	△ 40.2	△ 22.0	△ 51.1	△ 20.5

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であり、前期との比較でも全業種で悪化した。今期D Iの比較で、宮城は全業種で全国、東北ブロックを下回った。

表－2 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 16.6	△17.4	△ 15.7	△ 32.5	△ 33.4	△ 36.4
建 設 業	△ 9.0	△13.1	△ 4.7	△ 13.9	△ 4.2	△ 20.0
小 売 業	△ 36.1	△40.3	△ 35.5	△ 46.8	△ 37.2	△ 58.1
サービス業	△ 33.9	△29.5	△ 40.6	△ 35.4	△ 51.0	△ 55.2

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）来期見通しD I（26年7月～9月期）では、今期状況D Iとの比較で製造業で24.3ポイントの改善、小売業で14.0ポイントの改善が見通される一方、建設業で△8.0ポイント悪化、サービス業では△14.2ポイントの悪化見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、同じく今期状況D Iとの比較で製造業27.0ポイント、小売業で18.6ポイント、サービス業で3.2ポイントの改善が見通される一方、建設業については△8.0ポイントの悪化見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、売上額は全国では製造業、建設業が悪化見通し、小売業、サービス業がほぼ横ばいの見通しであり、製造業では宮城と逆の見通しであった。採算は、全国では特に建設業が悪化の見通しに対し、宮城では製造業と小売業の改善見通しが顕著であった。来期見通しD Iでは、製造業の売上D I、採算D I、小売業の売上D Iで宮城は全国を上回ったが、サービス業の売上D I、採算D Iは全国を大きく下回った。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 3.6	△ 11.3	△ 24.3	0.0
建 設 業	0.4	△ 15.5	△ 12.0	△ 20.0
小 売 業	△ 37.1	△ 37.2	△ 46.5	△ 32.5
サービス業	△ 20.2	△ 20.5	△ 20.5	△ 34.7

表－4 採算の状況と見通し (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 17.4	△ 16.9	△ 36.4	△ 9.4
建 設 業	△ 13.1	△ 19.7	△ 20.0	△ 28.0
小 売 業	△ 40.3	△ 37.6	△ 58.1	△ 39.5
サービス業	△ 29.5	△ 26.9	△ 55.2	△ 52.0

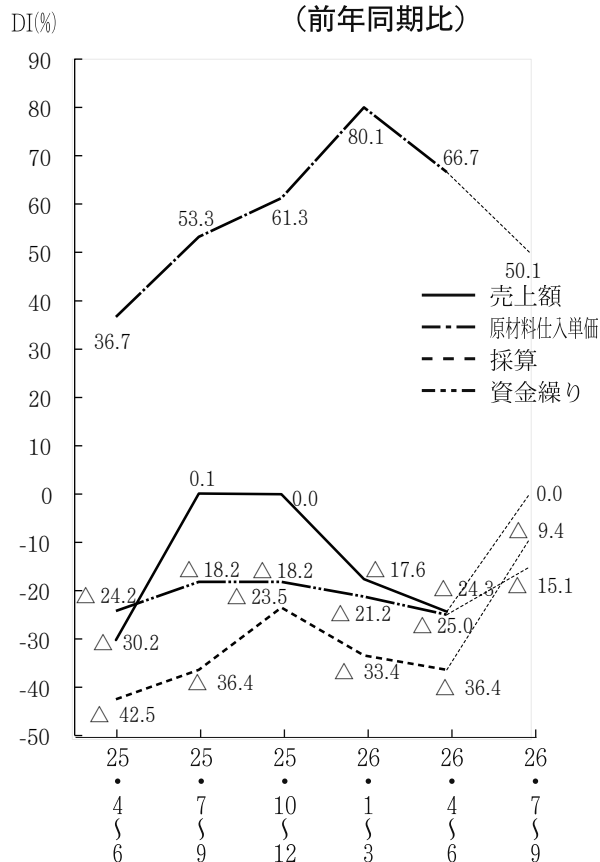
2. 県下産業別の景況

(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△24.3（前期△17.6）となり△6.7ポイント悪化し、採算D Iは今期△36.4（前期△33.4）で△3.0ポイントの悪化、資金繰りD Iも今期△25.0（前期△21.2）で△3.8ポイント悪化であった。原材料仕入単価は66.7（前期80.1）と△13.4ポイント低下し来期もやや改善の見通しであり、原材料の高騰状況は相対的には緩和されつつある。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



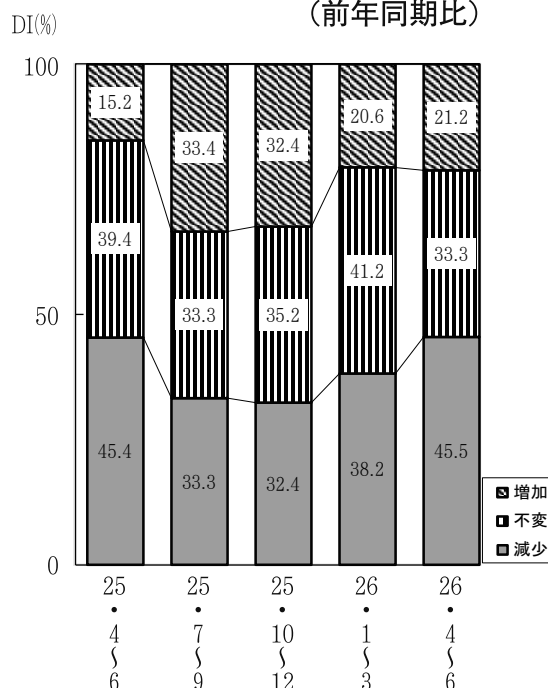
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の21.2%（前期20.6%）と0.6ポイント増加し、「減少」と回答した企業は45.5%（前期38.2%）と7.3ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△24.3（前期△17.6）となり前期比△6.7減と悪化した。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

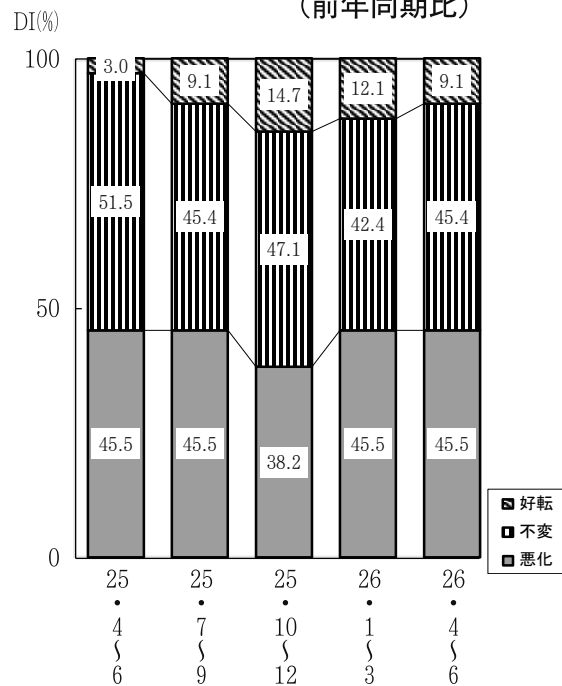


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 9.1% (前期 12.1%) で△3.0 ポイント減少し、「悪化」と回答した企業は 45.5% (前期 45.5%) で横ばいであった。

その結果、採算 D I は△36.4 (前期△33.4) となり前期比△3.0 ポイント悪化した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



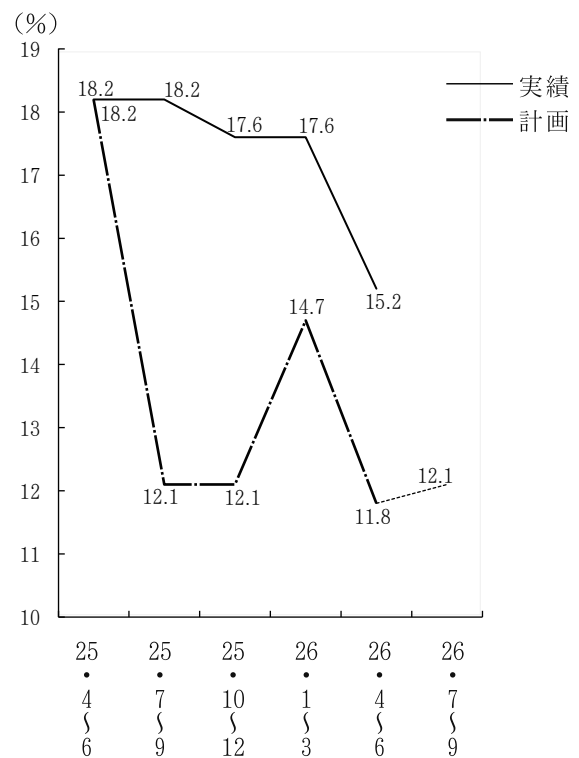
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は、全体の 15.2% (前期 17.6%) で△2.4 ポイント減少した。

その設備内容は生産設備、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 12.1% で、その設備内容は工場建物、生産設備、OA機器、福利厚生施設、その他となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

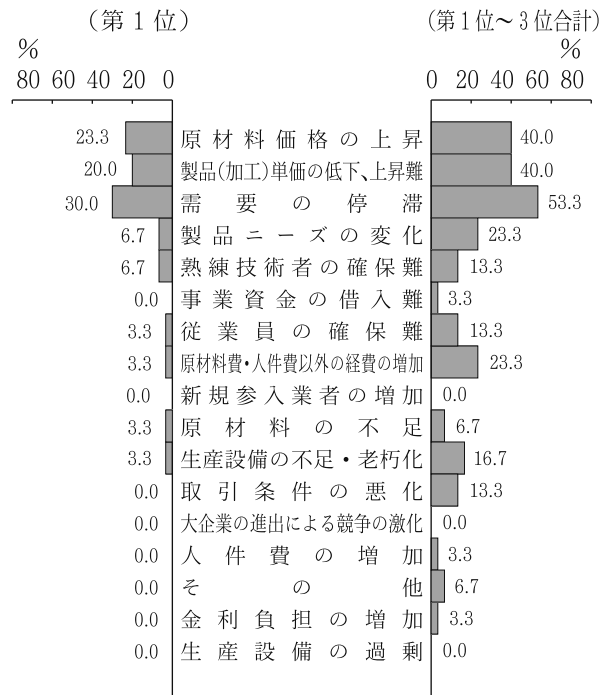


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」が30.0%で、次いで「原材料価格の上昇」が23.3%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」が20.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、最上位が「需要の停滞」で53.3%（複数回答計、以下同じ）、次いで「原材料価格の上昇」と「製品（加工）単価の低下、上昇難」が40.0%と同率で続いた。

図1-5 経営上の問題点



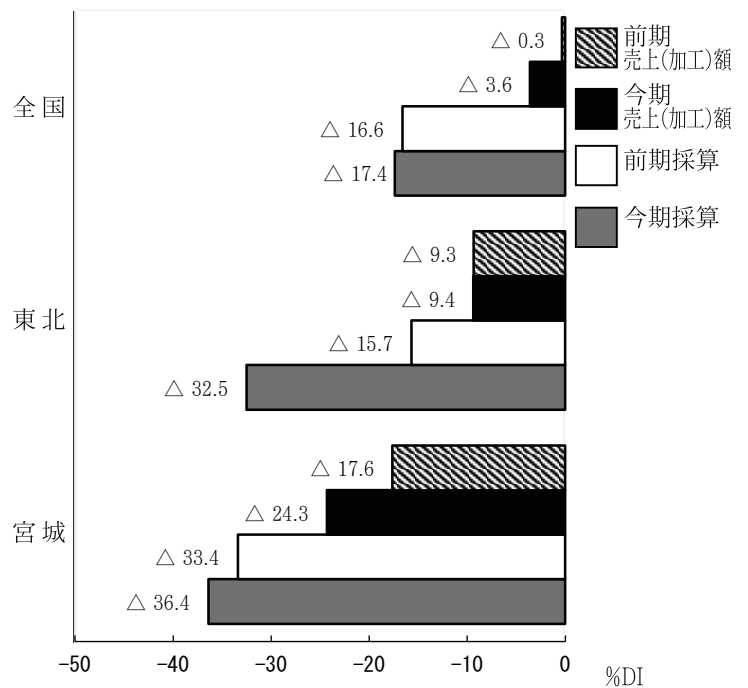
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上（加工）額D I、採算D I共に全国、東北、宮城のいずれでも前期に比べて悪化の方向である。

また今期のD Iでは売上、採算ともに宮城<東北<全国の順序で宮城が最も悪い。

本県回答事業者からは「消費増税で特に自動車関係の落ち込み激しく、売上減少。原材料も4月より値上がりし、今後ますます厳しくなると予想」（自動車部品業）とするコメントや、「消費増税の影響で景気が一時的に落ち込むことが予想され、不透明感が強い。補助金を活用した他社との連携によるビジネス展開も思考中」（金属加工業）とのコメントもあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



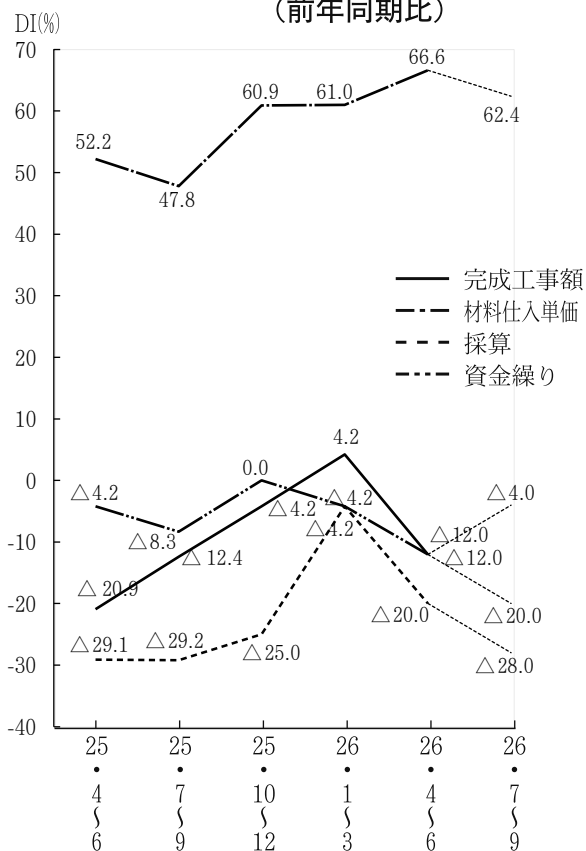
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは△12.0（前期4.2）と△16.2ポイント悪化し、採算D Iも△20.0（前期△4.2）で△15.8ポイント悪化、資金繰りD Iも△12.0（前期△4.2）と△7.8ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは66.6（前期61.0）で5.6ポイント上昇した。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



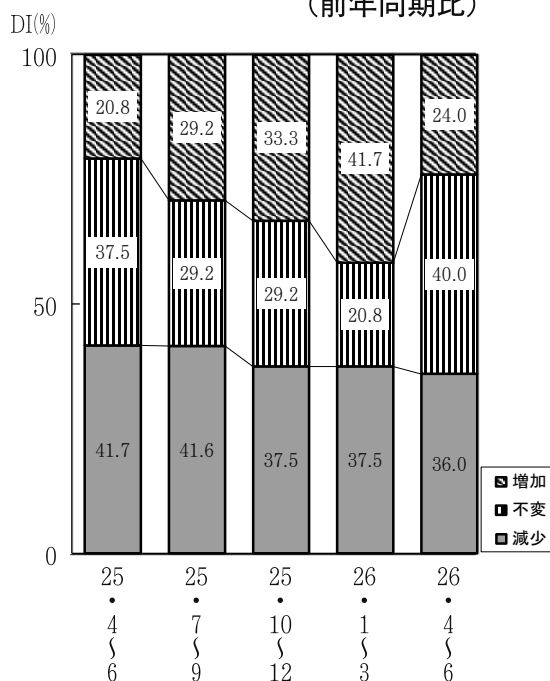
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の24.0%（前期41.7%）で△17.7ポイント減少し、「減少」と回答した企業は36.0%（前期37.5%）と△1.5ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△12.0（前期4.2）と△16.2ポイント悪化した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

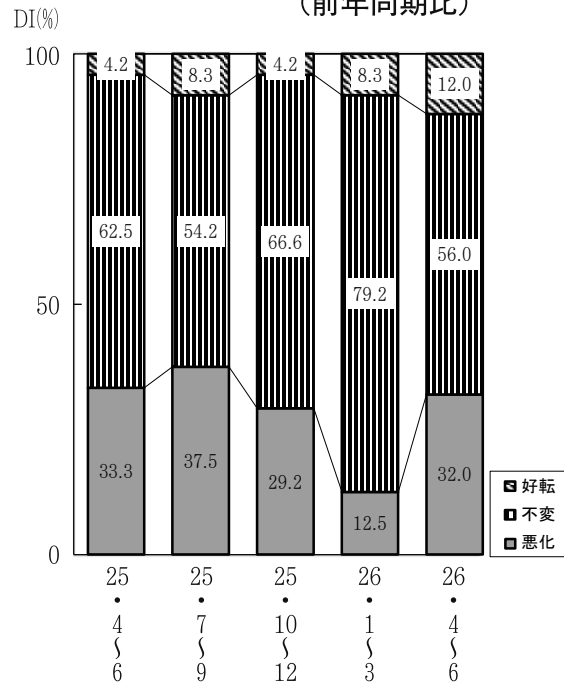


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 12.0% (前期 8.3%) であり 3.7 ポイント増加し、「悪化」と回答した企業は全体の 32.0% (前期 12.5%) で 19.5 ポイント増加した。

その結果、採算DIは△20.0 (前期△4.2) と△ 15.8 ポイント悪化した。

図 2 - 3 採算の状況 (前年同期比)



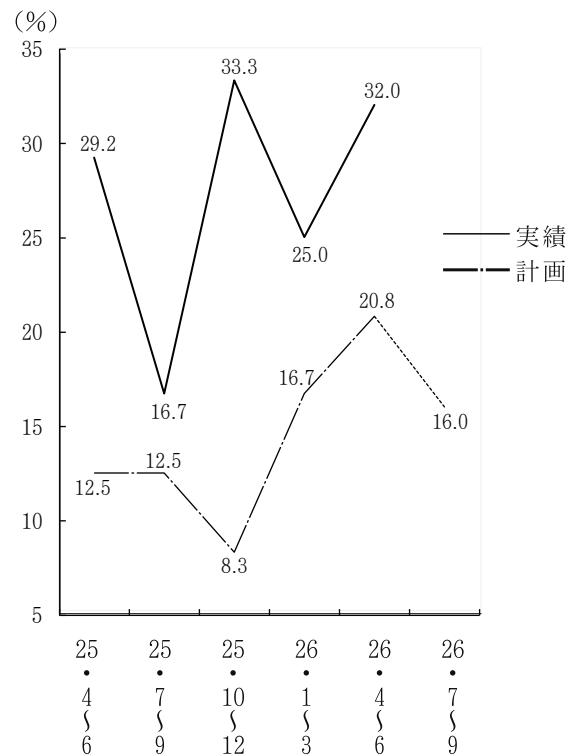
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は、全体の 32.0% (前期 25.0%) で 7.0 ポイント増加した。

その設備内容は土地、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 16.0%で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

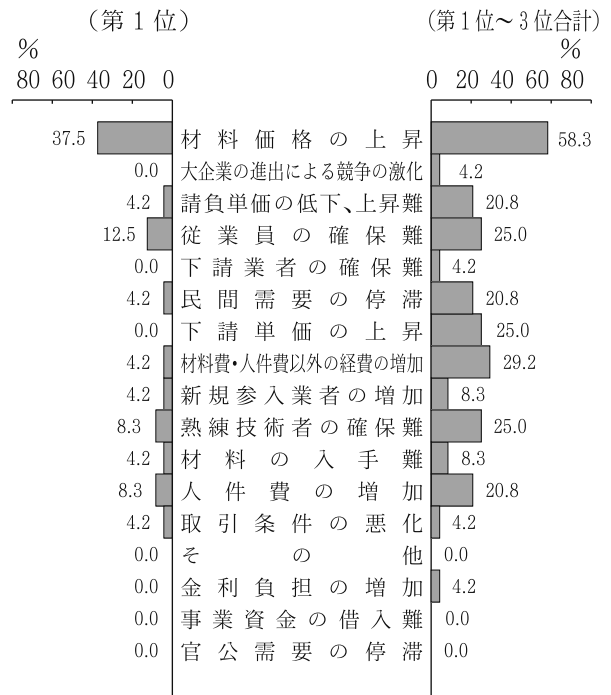


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料価格の上昇」(37.5%)で、次いで「従業員の確保難」(12.5%)、「下請単価の上昇」、「熟練技術者の確保難」、「人件費の増加」が同率(8.3%)で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「材料価格の上昇」(58.3%(複数回答計、以下同じ))が最上位で、次いで「材料費・人件費以外の経費の増加」(29.2%)であった。

図2-5 経営上の問題点



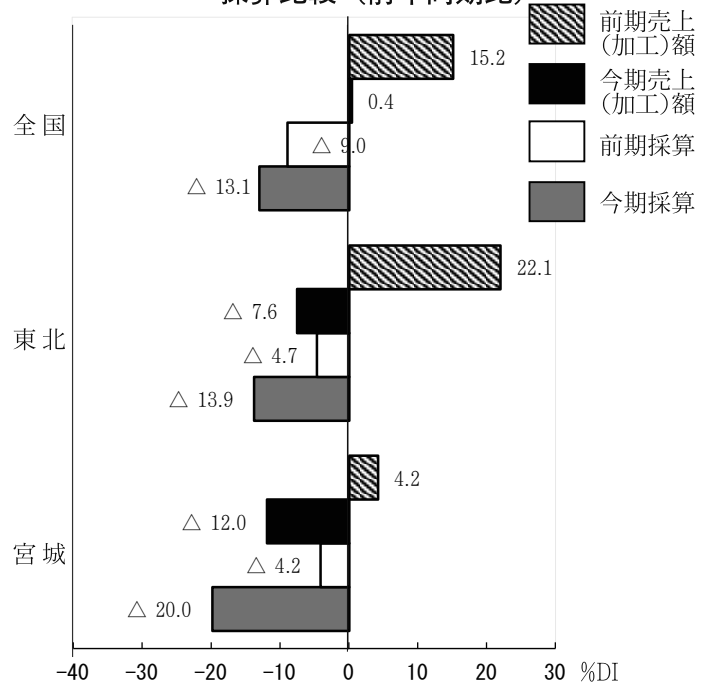
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DI、採算DI共に、全国、東北、宮城で前期に比べ悪化の方向であった。

売上DIの悪化は特に東北で大きく、また採算DIの悪化は宮城で顕著であった。

本県回答事業所からは「復興事業による事業は増加しているが材料価格の上昇により厳しい状況」、「従業員の高齢化が心配」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較(前年同期比)



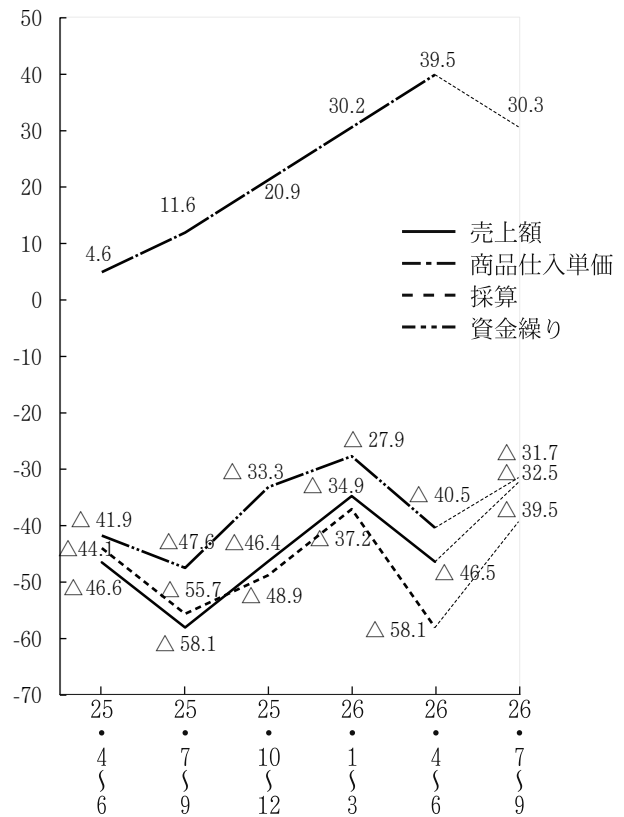
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは△46.5(前期△34.9)と△11.6ポイント悪化し、採算D Iも△58.1(前期△37.2)で△20.9ポイント悪化、資金繰りD Iも△40.5(前期△27.9)で△12.6ポイントといずれも前期に比べ悪化した。

商品仕入単価D Iは39.5(前期30.2)となり9.3ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



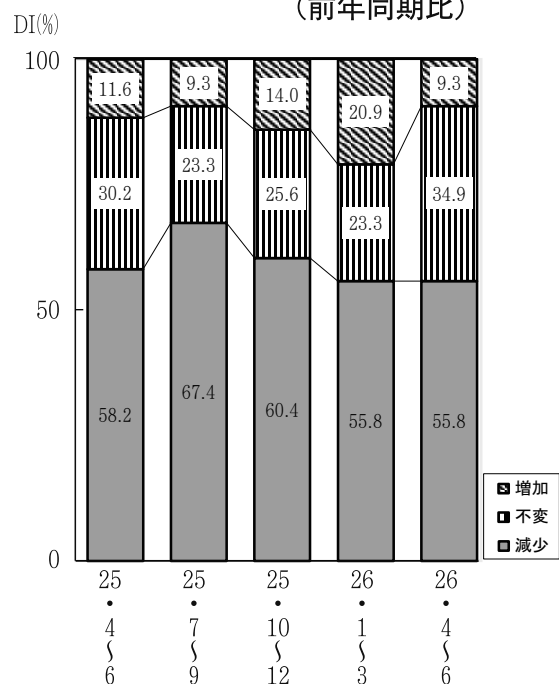
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は全体の9.3%(前期20.9%)と△11.6ポイント減少し、「減少」の回答は全体の55.8%(前期55.8%)と横ばいであった。

その結果、売上額D Iは△46.5(前期△34.9)と前期比△11.6ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

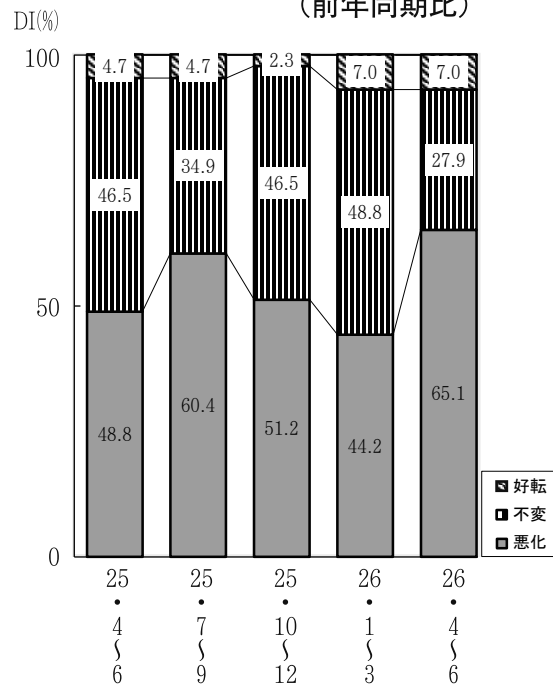


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の7.0%(前期7.0%)と横ばいで、「悪化」の回答は全体の65.1%(前期44.2%)で20.9ポイント増加した。

その結果、採算DIは、△58.1(前期△37.2)となり、前期比△20.9ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



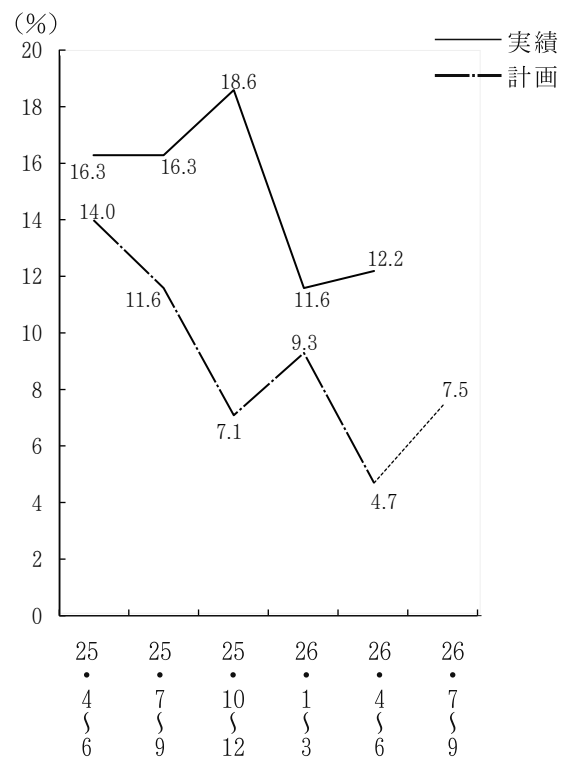
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の12.2%(前期11.6%)で、0.6ポイント増加した。

その設備内容は車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業は7.5%で、その内容は販売設備、OA機器、その他を想定している。

図3-4 設備投資の状況

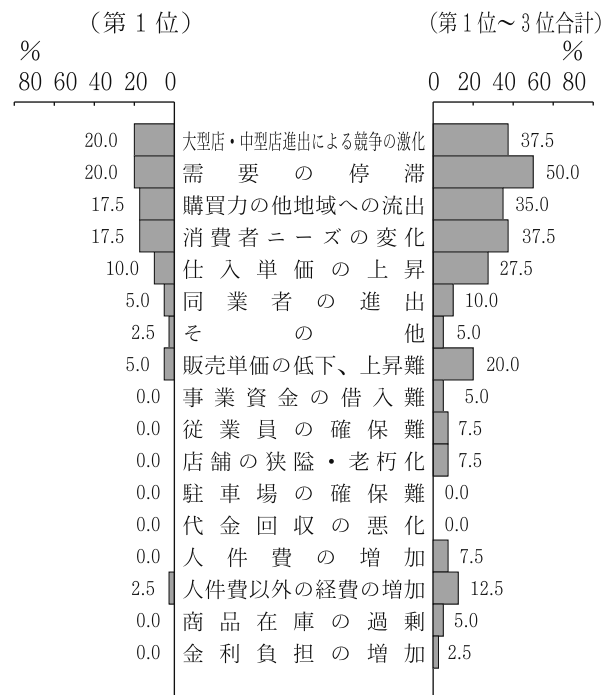


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が共に20.0%で、次いで「消費者ニーズの変化」、「購買力の他地域への流出」が同率(17.5%)で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(50.0%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「消費者ニーズの変化」が同率(37.5%)で続いた。

図3-5 経営上の問題点

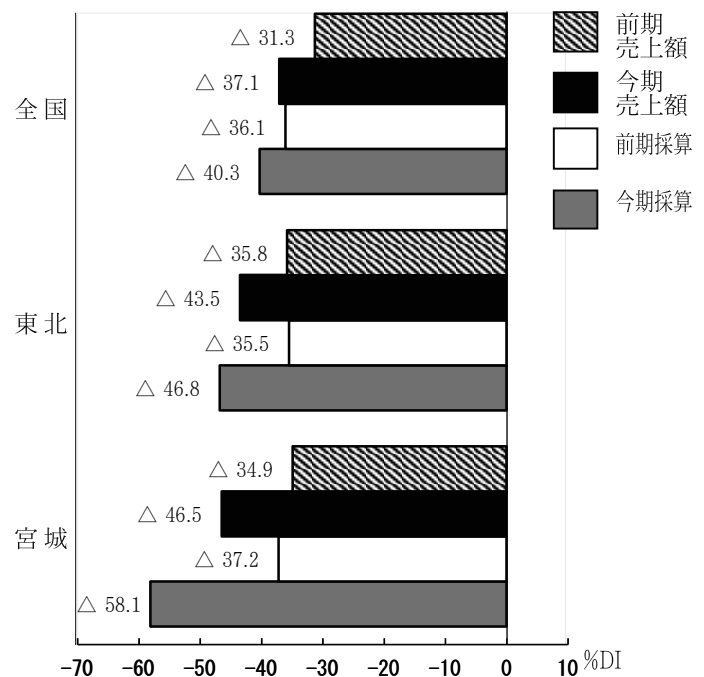


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上DI、採算DI共に前期に比べて全国、東北、宮城全てで悪化の方向であった。今期のDIでは、売上、採算共に宮城の悪化が顕著であった。

本県回答事業所から「消費増税による売上低下顕著。仕入れ単価が上昇したが販売単価に上乗せできず苦しくなった。資金繰りも悪化、予想していたより悪い状況」(海産物販売)、「大型店・中型店の進出により売り上げが減少」(食料品店)との一方で、「福祉施設を中心に需要が増えつつある」(電気店)とのコメントも寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)

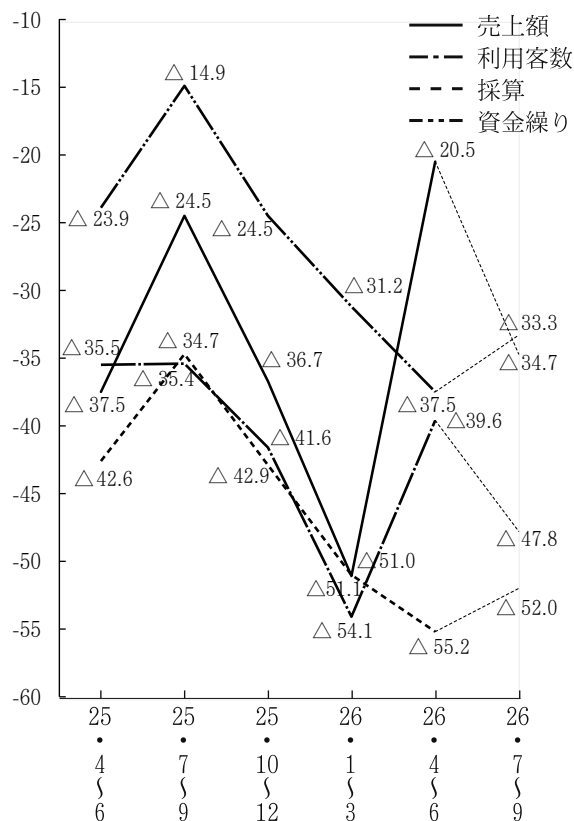


(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは△20.5（前期△51.1）で30.6ポイント改善したが、採算D Iは△55.2（前期△51.0）と△4.2ポイント悪化し、資金繰りD Iも△37.5（前期△31.2）と△6.3ポイント悪化した。利用客数D Iは△39.6（前期△54.1）で14.5ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



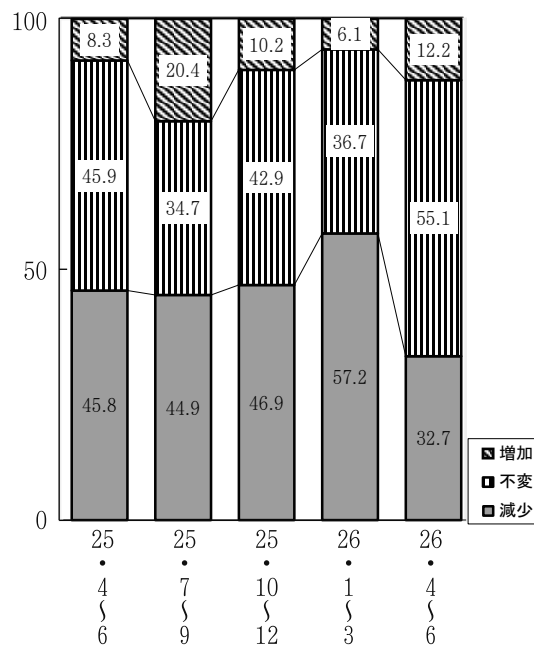
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は全体の12.2%（前期6.1%）で、6.1ポイント増加した。「減少」の回答は32.7%（前期57.2%）で△24.5ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは△20.5%（前期△51.1%）で前期比30.6ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

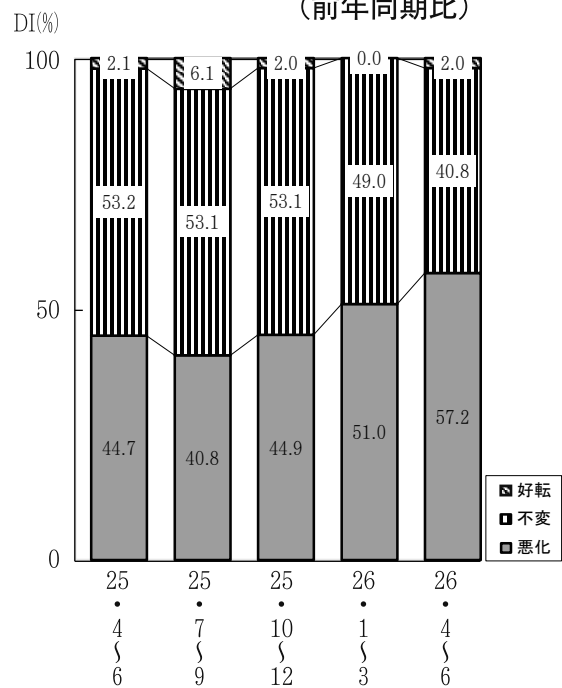


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 2.0% (前期 0.0%) で前期比 2.0 ポイント増加した。「悪化」と回答した企業は 57.2% (前期 51.0%) と 6.2 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は $\Delta 55.2$ (前期 $\Delta 51.0$) となり、前期比 $\Delta 4.2$ ポイント悪化した。

図 4 - 3 採算の状況
(前年同期比)



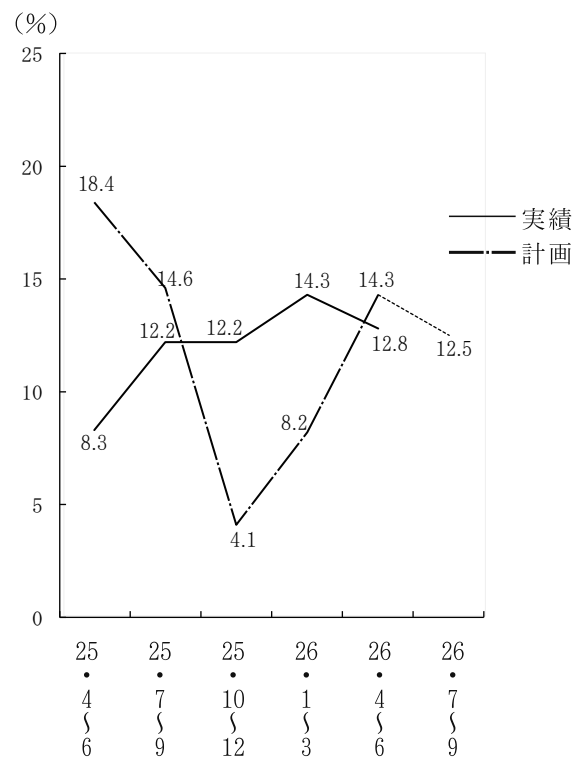
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施(実績)した企業は、全体の 12.8% (前期 14.3%) で $\Delta 1.5$ %減少した。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、12.5%であり、その内容は、建物、サービス、車両・運搬具、その他となっている。

図 4 - 4 設備投資の状況

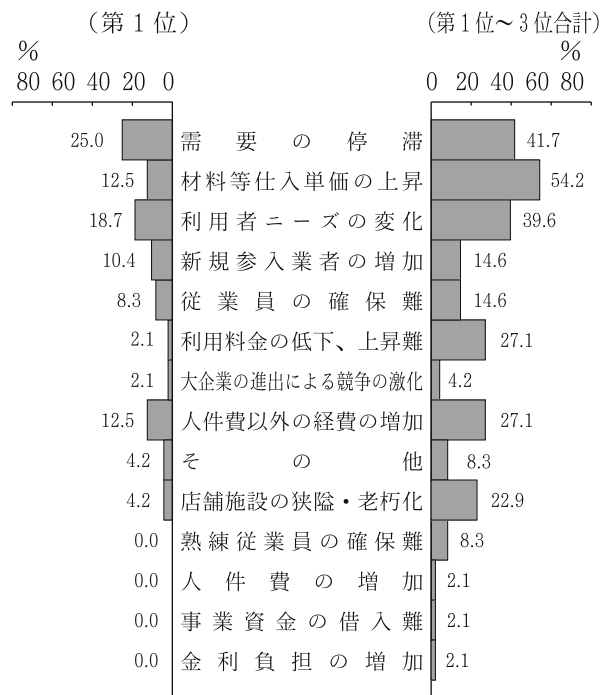


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(25.0%)で、次いで「利用者ニーズの変化」(18.7%)、更に「材料等仕入単価の上昇」、「人件費以外の経費の増加」が同率(12.5%)で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料等仕入単価の上昇」(54.2%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、次いで「需要の停滞」(41.7%)、更に「利用者ニーズの変化」(39.6%)が続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上DIは、前期に比べて全国、東北、宮城いずれでも改善し、特に宮城における改善度は著しいものであった。

一方、採算DIでは、前期に比べ全国、東北では改善方向である一方、宮城においては若干の悪化という結果であった。

本県回答事業所からは「4月は消費税分売上が上がったが、それ以降が不安。増税による当店の新料金プランが今後成功するのか心配」(理髪店)のコメントが寄せられた。また「売上が増加するより材料等仕入れ単価の上昇と水道光熱費の上昇が目立つ。パート等の人材の確保が難しい」(旅館業)とのコメントもあった。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

